

1. 「芝浦工業大学メンネルコール第46回定期演奏会」鑑賞録

元練習指揮者・前田高史さんからのメール案内で、平成18年12月2日(土)に「上野学園石橋メモリアルホール」に行ってきました(日本丸からは、私とB1の原田寛さん)。

案内のチラシにあった曲目は、「椰子の実」、「道」、「希望の島」、「秋のピエロ」、、、、等々でしたのでとても楽しみにしていました。

上野駅から地図を頼りに40年以上昔に歌った「希望の島」なんかを口ずさみながら「開場」のほぼ定刻に石橋メモリアルに到着。

ロビーはいつになくシーンとしており不思議な雰囲気。受付で前田さんのご厚意で封筒に入った日本丸団員宛の「招待券」を有難くいただき、ノートに記帳をしていたら、係りの人が小声で「今、演奏中なのでちょっとお待ちを、、、」(ガンッ!)。実は、どういうわけか案内チラシの時刻が「30分」違っていたのでした。

でも、モニターTVには、なんかいい感じの男声合唱が聞こえてきます。すると小太りのオジサンがスッと扉を開けて中に入っていましたので、すかさずそのすぐ後ろを背後霊のように寄り添って首尾よく入場してしまいました。

そこでまず聴いた曲、実はOBを含む約30名の参加者全員で歌うオープニングの「芝浦工業大学校歌」だったのです。「えっ、なに?この感動的な名曲は?!」というほどの素晴らしい演奏でもあり男声合唱曲でした。(またまた、ガンッ!)

S.I.T. M.C. HPより



後程落ち着いてプログラムをみるとその理由が分かりました。北原白秋作詞、山田耕筰作曲、福永陽一郎編曲という、これ以上は望めないという神様のような名人がかかわった校歌だったというわけです。(もう一度聴いてみたい!)

校歌を披露した約30名の中高年の中にまじってグリーンの派手なジャケットを着ている「6名」の若者がおりました。第1ステージは、その6名の若者たち(実はメンネルコールの現役団員でした)による、アドリアーノ・バンキエーリ(1567-1634)、オラツィオ・ヴェッキ(1550-1605)の作品で「イタリア・ルネサンス小品集」6曲でした。指揮は常任指揮者の有村祐輔先生(上野学園大学教授、都留文科大学名誉教授)で、もちろんイタリア語で暗譜、とても美しいハーモニーを聞かせてくれました。

第2ステージ以降は、現役、OB全員の演奏。

2ステは前田さんの編曲指揮で「世界の歌」:

「ふるさと」「椰子の実」「道」「フレールジャック」(もともとフランスの曲ですが、最初は英語、次に短調でフランス語、それからドイツ語になって「ブラームスの子守唄」「静かな湖畔」なども挿入歌風に出てくる、という前田さんご自身のアレンジ)、「サイレントナイト」「ザ ウォーター イズ ワイド」(日本丸でもやりましたね)、「風も雪もともだちだ」「アロハオエ」。

第3ステージは、アカペラの「愛唱歌集」で、指揮は学生指揮者の喜多井裕樹君(電子情報システム学科3年):「わが歌」「希望の島」多田武彦の「雨の日に見る」、「秋のピエロ」、懐かしかったなー。学生時代によく通った喫茶店、夏休みの小海線・甲斐大泉での合宿で練習したシューベルトの「ドイツミサ」等々、、、一瞬でしたがタイムマシンに乗って過去への心の旅路でした。

第4ステージは、男声合唱組曲「おかあさんのばか」(有村祐輔指揮)

小学校6年生、古田幸(みゆき)ちゃんの詩によるもので、お母さんがプールで突然脳出血の事故にあい、お母さんを失った幸ちゃんが悲しみの中で、ある時は明るく、またある時はひたむきに生きることに向かい合って書き続けた多くの詩の中から13編が選ばれて作曲されたものです。演奏の12曲は、磯部俣、中田喜直がそれぞれ6曲ずつ作曲しています。1965年にダークダックスが初演をした作品ですが、出演されたOBの多くの方が現役時代に手がけた曲とのことでした。

小学校4年生の福田莉香ちゃんが、とてもしっかりと詩の「朗読」で幸ちゃん役を果たし、最終ステージにかわいい花を添えました。

最後の「教会の神様」の詩を紹介すると、、、

おかあさんが死んでから、
さびしい日がおおい、
おとうさんやおにいさんは、
神様なんかいないというけれど、
私はやっぱり神様をしんじる。
教会へ来てよかったな。

神様に聞いてほしいことがいっぱいある。
神様に力になってもらいたいこともある。
教会へ行くと

私はおかあさんにあえるような気がする。

ホームページ情報では、芝浦工業大学の学生数:男5,640人、女781人、計6,421人となっていますが、「文化会音楽部メンネルコール部員」が「6名」とは、全体の僅か0.09%!これが現代の世相かな?僕らが学生の時代は、せめて「3%くらいは部員がいたのだがな、、、」と考えると、この現象はどこかの国の金利みたいだなー。それだけ年をとってしまったということのかなー。(帆船日本丸男声合唱団員としてはちょっと寂しいけど。)

最後に演奏会にご招待いただいた前田高史さんに深く心から感謝いたします。(岩尾さん寄稿)